

1時間完結型授業スタイル(国語科)

国語科の目標		思考力・想像力	言語感覚	言語活動の充実
<p>国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高め合うとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を高め国語を尊重する態度を育てる。</p>		<p>言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊に創造する力である。思考力や想像力などは認識力や判断力などと密接に関わりながら、新たな発想や思考を創造する原動力となる。</p>	<p>言語感覚とは、言語の使い方の正誤・適否・美醜などについての感覚のことである。話すこと・聞くこと、書くこと及び読むこと、具体的な言語活動の中で、相手、目的や意図、多様な場面や状況に応じて、どのような言葉を選んで表現するのがふさわしいものか等を直感的に判断したり、話や文章を理解する場合に、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的にとらえたりすることである。言語感覚を養うことは、一人一人の児童の言語生活や言語活動を充実させ、ものの見方や考え方を個性的にすることに役立つ。こうした言語感覚の育成には、多様な場面や状況における学習の積み重ねや、継続的な読書の時間などが必要であり、そのために、国語科の学習を他教科等の学習や学校教育全体に関連させていく工夫も大切である。さらに、言語環境の整備も、言語感覚の育成にきわめて重要な意味を持つ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本単元でつけたい力を明確にする。 2. つけたい力にふさわしい言語活動を選ぶ。 3. 言語活動を単元を貫いて位置づける。 4. 子どもの「大好き」「疑問?」「伝えたい」など主体的な意識を生かす。
単元の流れ	見通す	わかる	生かす	広げる
	<ul style="list-style-type: none"> ○単元目標を達成するために必要な言語事項と関連した言語活動とその目的及び学習計画を知り、個人テーマを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材文(第1教材)の読み取りを通して、言語活動に必要な表現方法を理解し、教材文の言語活動作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかる」段階で習得した表現方法を使って、自分のテーマで言語活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の言語活動作品を発表し、書き手の考えの明確さや表現の仕方などについて交流し合う。
1時間の授業の流れ	学習活動(○)及び指導上の留意点(・)	学習活動(○)及び指導上の留意点(・)	学習活動(○)及び指導上の留意点(・)	学習活動(○)及び指導上の留意点(・)
	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元の学習のめあてや言語活動を知る。 ・本単元で作成する言語活動作品を知らせる。 ○「広げる」段階での目的(学級での発表会、下級生に伝える、図書館で紹介する、etc)を押さえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習計画をもとに、本時のめあてを知る。 ・本時で学習する表現方法についてモデルを使って確認する。 ・本時の学習の流れを説明する。(学習形態等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習計画をもとに、本時のめあてを知る。 ・本時で使う表現方法についてモデルと教材文で作った作品を使って確認する。 ・本時の学習の流れを説明する。(学習形態等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習計画をもとに、本時のめあてを知る。 ・本時の学習の流れを説明する。(学習形態等)
	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元の言語活動作品のために必要な表現方法に気づく。 ・言語活動作品のモデルを提示し、写真・絵・要約・見出し・構成などの表現方法に気づかせる。 ○自分の言語活動作品のテーマを決める。 ・言語活動に沿ったテーマの設定をするように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文を読み、必要な表現方法を見つける。 ・文章の中の大事な言葉や文を書き抜かせたり、優れた叙述に線を引かせ、自分の考えをまとめさせたりする。 ・時間的な順序や事柄の順序、段落相互の関係、事実と感想・意見の関係などに着目させる。 ○見つけた表現方法を使って教材文をモデルの形にまとめる。 ・見つけた表現方法を使って、教材文の言語活動作りをさせ、見つけた表現方法が使えるようにする。 ○書いた作品を発表し合う。 ・お互いの作品の良さを出し合わせたり、書き手の考えの明確さや表現の仕方などについて意見や助言を述べ合わせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のテーマにあった言語活動作品作りに取り組む。 ・モデルを参考にさせながら、調べたことや感想意見が相手に効果的に伝わるように、学習した表現方法を使うようにさせる。 ・自分の考えが明確になるように、事柄の順序や段落相互の関係、文章の構成などに気を付けて、作品作りに取り組ませる。 ○本時で作った言語活動作品を発表し合う。 ○お互いの作品の良さを出し合わせたり、書き手の考えの明確さや表現の仕方などについて意見や助言を述べ合わせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の言語活動作品を発表し合う。 (話すポイント) ・相手や目的に応じて、事柄が明確に伝わるように筋道を立てて発表しているか。 ・相手を考えて、話し方(言葉遣い、姿勢、声の大きさなど)に気を付けて発表しているか。 (聞くポイント) ・発表者の意図をとらえながら聞き、質問や感想など自分の考えをまとめながら聞いているか。 (話し合うポイント) ・お互いの作品の良さを出し合わせたり、書き手の考えの明確さや表現の仕方などについて意見や助言を述べ合わせたりする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習計画を知る。 ・言語活動作品を完成させるまでの学習計画を知らせる。 ・個人テーマに沿って平行読書を進めるように促す。 ・平行読書については、図書担当と連携しながら読書環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の振り返りをし、次時の活動について知る。 ・各自の作品を見直し、文章のまちがいを正したり、よりよい表現に書き直したりする。 ・学習計画をもとに次時の活動について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の振り返りをし、次時の活動について知る。 ・各自の作品を見直し、文章のまちがいを正したり、よりよい表現に書き直したりする。 ・学習計画をもとに次時の活動について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元の学習の振り返りをする。 ・本単元の学習についての感想をまとめさせる。